

「窓からは自然も見えて、日差しが入るとシラカバと壁の白が映える」と改装した客室で語る竹内社長(諸橋弘平撮影)



## 客室に道産材ふんだん

### シラカバのソファ、ホタテ貝の壁

【東川】町内の旭岳温泉にある「湧駒荘」(竹内崇社長、36室)が客室3室を改装した。北海道産シラカバ材のベッドボードやソファのほか、道産ホタテ貝殻のしつこいを塗った壁など、北海道らしさを感じられる客室に生まれ変わった。

ベッドボードやソファなどは町内の家具工房が製作。客室や家具のデザインは竹内社長の兄隆介さんが代表を務める建築設計事務所「トピカ」(旭川)が担当。隆介さんはシラカバの有効活用を目指す一般社団法人「白樺プロジェクト」

### 旭岳温泉・湧駒荘が改装

(旭川)の会員で、シラカバ材を使った改装を提案した。

改装した客室は2月中旬から利用を開始している。3室ともダブルルームで1室約12平方メートル。テーブルなど家具の他にも窓の木枠や棚などもシラカバでしつこい、壁のしつこいには道産ホタテの貝殻を使用し、明るく開放感のある客室になった。竹内社長は「一人旅やワーケーションなどで利用してもらえれば」と期待する。1泊2食付きで1人1万5千円から。問い合わせは湧駒荘 ☎0166・97・2101へ。(和泉優大)